

断じて許すな

運輸 職場

7万人中3万人の首切り

（10%）当局が「86・11以降の要員体制（案）」を公表

62年度首 会社エリア別・系統別要員規模の概要 (100人単位としたもの)

	本州					四国 エリア	九州 エリア	合計
	北海道 エリア	東日本 エリア	東海 エリア	西日本 エリア	計			
営業	3800	27800	5800	16900	50500	1300	5000	60600
運輸	2800	18300	5400	11,100	34,800	1,000	3,300	41,900
施設	2200	10900	3400	6800	21,100	600	2000	25900
電気	600	6100	1900	3600	11,600	200	900	13300
工場	700	4900	1500	3200	9600	300	900	11500
その他	2000	5200	1500	3700	10400	600	1000	14000
小計	12,100	73,200	19,500	45,300	138,000	4,000	13,100	167,200
非現業 部門等	2700	13000	3000	6400	22400	600	2400	28,100
合計	14,800	86,200	22,500	51,700	160,400	4,600	15,500	195,300
(参考)								
監理委	15000	95000	27000	57000	179000	5000	16000	215000

日刊 勤労千葉

85. 10. 11

No. 2061

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）五二五〇六（公衆）〇四七二（22）七〇七

全ての国鉄の仲間の皆さん、いよいよ決戦のときはきた。
十月九日、国鉄当局は、「今後の要員体制の考え方について」を発表し、来年の十月末までに徹底した合理化を推進し、十九万人体制を実現するという断じて許せぬ悪らつな方針を打ち出した。これは、あと一年で運輸職場だけでも実に三万人を合理化するものである。これを許したら職場はまさに生き地獄だ。
十一月ストの大爆発でこの悪らつな計画をぶっとばそう。

「監理委答申」を上まわる大合理化

当局は、「今後の要員体制の考え方について」で「監理委員会の『意見』を受けて以下の方針を推進する」として、徹底した合理化で八六年十月末までに要員規模を十九万人にするとしている。

これは、監理委員会の八七年四月一日、二一萬五千人（適正要員十八萬三千人十過員として新会社へ行く三萬二千人）からさらに二萬五千人を削減した大要員合理化である。系統別要員規模は表の通り。

当局は、これにもとづき「乗務員の勤務等改正」「列車掛の乗務省略」をはじめ「系統別合理化の概要」なる大合理化を十月中旬にも提案せんとしている。

とくに、運輸関係については「乗務効率の向上」「検修、構内作業体制の見直し」「事務係の抜本的見直し」を図るとし、最終的には来年十一月ダイ改時に現行全国で約七万人の要員を四万一千九百人に削減しようとしている。

実に運輸だけで三万人の首切りを目指し、八六年二月にこの具体的提案を行わんとしている。これをだまって許せるか。

一歩引いたら 百歩ふみこまれる

|| 起って闘う以外ない ||

当局は、動労「本部」革マルの屈服と国労中央指導部の事実上の無方針をいことに、カサにかかった攻撃をかけてきている。

敵は、労働者が一歩引けば百歩ふみこんでくる。

当局は、「監理委答申より多い二万五千人については、『過員』として新会社へ移籍し、出向に行ってもらう予定」と首切り要員であることを公言している。ナメルのもいいかげんにしろ！ 答申すら上まわる合理化で膨大な「過員」をつくり、八七年四月一日を期して目茶苦茶な首切りを強行するなど断じて許せない。動労「本部」革マルのように、当局の「過員」生み出し攻撃に協力した上で「雇用安定協約」再締結（八七年三月三十一日まで）をしてもらい、これで「雇用が守れる」など茶番もいいところだ。今こそ、十一月大ストライキで怒りの総反撃に立とう。